

婦人と子ども

第十三卷 第十二號

齒牙衛生に就て

文部省囑托
醫學士 古 瀬 安 俊

近來、學校衛生がだん／＼やかましくなつて來て、トラホーム、結核などは随分注意せらるゝやうになつて來ましたが、まだ、齒に關係した事は

多くの場合、等閑に附せられて居ります、乳齒は永久齒にかはるのであるからといふので、殊更等閑に附せられやすいと見えます。しかし、堅固な永久齒は堅固な乳齒の後に生ずるのであるから、決して乳齒についての注意を忽にすべきではないのであります。それで、從來學校衛生規定の項目には「禹齒の有無につき検査すべし」とあつたのを「禹齒につき検査すべし」と改めて禹齒の有無を見

るだけでなく、今少し進んで、禹齒の事について考究するやうにしてみました。

口中の衛生について

昔から、むかでや、げじ／＼に唾をかけると死ぬると云ひつたへて居る。それから考へて、唾液はある動物に有害であるといふ説をもつて居る人がある。また、唾液は、口中の微菌を殺すはたらきをもつて居るといふ説もあるが、是等は確實な説ではありません。なせならば、普通、丈夫な人の唾液の中に肺炎菌が存在して居るではありませんか。又世人は、口中の傷の早く癒るのは唾液の

お蔭であるともいひますが、之れは、口中の粘膜の抵抗力が強いからであります。またある人は、門歯の虫歯は、上の方に多いといふ點から議論をして、下の方の歯は、舌下線から出る唾液に濕はさて居るから大丈なのであるといふが、之もよくない、反て齒槽膿漏の如きは、多く下の方にある。かつ、奥歯は下歯の方がよく虫歯になるのを見る。と先きの説は根據のない説といはねばならぬ。

千八百八十九年にフロライン氏は、種々實驗の末、唾液は、肺炎菌が増えてゆかぬやうにするだけの力はあると云ひだした。又サナレリー氏は、人の唾液を漉して、その合んで居る微菌を悉く除去して、その中に新たに微菌を入れて見た、處が、其微菌が少しも繁殖しなかつたといつて居る。しかし、一度漉した唾液は、微菌を養ふ力が極めて弱くなるのであるから、之れも、極めて、獨斷論たるを免かれない。

さて、愈、唾液に、微菌を殺すだけの力がなく

て、口中の傷は早く癒るのであつて見れば、其効は、口中の抵抗力の強いといふ事に歸せねばならぬ。此口中の抵抗力を保つ爲めには、口中の清潔によく／＼注意しなくてはならぬ。

次に唾液は、食物に化學的變化を與へる。例令ば唾液中のブチアリンといふ成分は、之れが食物の蔗糖にはたらいで、麥牙糖と、葡萄糖に化するのである。此麥牙糖、葡萄糖は、腸壁から直ちに吸収せられるものであります。口中の唾液は斯かるはたらきが著しくして、微菌に對しては、却つて、その養成に適して居る位である、それは、耳下線にある唾液をとつて、之を動物に植ゑて見ても死なないのに、口中にある唾液をもつてすれば直に之を死に至らしむるのであるから、口中の唾液は、一層、微菌が繁殖して有毒であるに違ひない。されば、口中の清潔には十二分の注意を拂はなくてはならぬ。時とすると、口中の微菌の爲めに、全身の病氣を惹起することがある。即かの肺

炎、核結、膈かたる、胃加答兒の如きに、口中にある種々なる微菌が、咳嗽などの際に内には入り込んだりして種々なる混合傳染を引き起す場合があるし、虫歯の爲めによく咀嚼しないで嚥下した食物の爲めに起る症状もある。

次に齒を丈夫にするには、いつ頃から注意すべきかといふに、之は胎兒の時から始めなければならぬ。不完全なる齒をもつて居る人の子は、不完全な齒をもつて生れる。胎兒の齒は、いつ頃生ずるかと言へば、二ヶ月目にはすでに齒の基礎となるべき組織が定まり、七ヶ月目には齒の組織がたまつて來る即灰化作用が始まるのである。故に妊婦には、齒の質になるべき石灰鹽類の多い食物を與へるがよい。大豆、豌豆、米類などは多く此の質をふくんで居る。

又妊婦は多く齒がわるくなる。これは生理上から起るものである。即妊娠すれば、唾液加酸性にさはるから齒を痛めるのである。また、妊婦は吐

氣があるので、唾液の小量が口中に逆流する上に腐敗物が齒間に停滯する場合が多いから、妊婦は必ず一日に三度位、含嗽をして揚枝で齒をみがく事を怠らぬやうにして、口中を十分に清潔に保つべきである。かく母體に注意して、まづ、小供が生れたとして、次は乳兒の事に移つて御話致します。

乳 兒

人間の一生中、最死亡の多いは乳兒期である。實に千人の中二百人の割合で死亡しつゝあるのである。全體の死亡の中下分の三十は實に乳兒である。乳兒の保護は大切な問題である。

從來、獨逸は、乳兒の死亡數が非常に多く、日本は非常に少なかつたので、先年、ベルツ氏は、日本は子供の天國であると賞賛せられたのに、其後日本では次第に其死亡率が増して、獨逸では次第に減じつゝある。之れはその保護の如何に原因して居るのである。

西洋諸國では、貴婦人が集つて、育兒相談所といふやうなものを設立して、専門の醫者を聘してそこへ、附近の乳兒をつれて来て、(病氣にならないう前に)種々の點に注意を與へると云ふやうな事が行はれて。特に我國でも、どうか、一日も早くかゝる企てのあらんことを希望する。

母乳で育てること、牛乳で育てるのは大に死亡率が違ふ。牛乳で育てた嬰兒の死亡率は百分の六十五、母乳で育てたのた百分の二十五に當ると云ふ統計もあります。

乳兒死亡の主なる原因の一つは、腸胃に關する病氣である。胃腸の病氣は、多く口中から起るから乳兒の口中は十分に注意しなければならぬ。乳兒の口中は脱脂綿で拭ふてやるがよい。尤も、此の際刺戟は大禁物である。また、鼻をつまんで、食鹽水或は微温湯を口中に入れてやるといふ法もある。(鼻をしつかりおさへて居れば、嚔下の恐れはない)

齒の生えざわには、齒ぐきがむづかゆいので、何でもかむのであるが、此時は、豫め殺菌せる布片に硼酸とサツカリンをつけて、之を脱脂綿で包み、更に綿撒糸で包んで、乳首の如くまるくつて微温湯にひたしてかませるがよい。ゴム製の乳首でも差支はないが、消毒せずに放任しておくのはよろしくない。

兎に角西洋のある學者の云つたり通り、「人間の長壽時を保つ秘訣は齒を丈夫にするにあり」と云はねばならぬ。

乳齒は、永久齒にかはるのであるが、前にも述べた通り、乳齒を丈夫にしておかぬと丈夫な永久齒はとも出来ないのである。

齒の發生年月と順序は大凡次の表の様に行はれます。

乳齒の生えて来る順序

生後六ヶ月より九ヶ月

下方門齒上方門齒(四)

一歳の終 下方側門齒次に上方側門齒(四)

十五ヶ月 第一大臼齒(四)

二十ヶ月 犬 齒(四)

二歳の終 第二大臼齒(四)

永久齒と交換せる、順序

六七歳 第一大齒(四)

七八歳 前門齒(四)

八九歳 側門齒(四)

九、十一歳 第一小白齒(四)

十一十三歳 犬齒第二小白齒(四)

十三、十五歳 第二大臼齒(四)

十七、四十歳 智 齒(四)

小供が四歳に達した時には、楊枝を使用させるがよい。楊枝の毛のかたさは、中等位のものがよろしい。齒磨粉は嚙下吸入する恐があるから、食鹽水丈けでも結構である。朝夕二度齒の掃除をせるがよろしい。多くの人は、朝は、随分丁寧な、齒

をみがいて、晩は少しも注意しないやうであるが口中の、停滯物は、夜中に醗酵して腐敗しやすから、夜の含嗽と、齒の掃除は最大切である。

また、食物は出来るだけ咀嚼せしめるがよろしい。咀嚼は消化の第一の階取であるから。

幼稚園の保母の方では、幼兒をその蟲齒の有無にかゝはらず、必ず年に二度づつ、齒醫者につれてゆくやうに、父兄に忠告して置きたいものです。さうすば、もし齒に少しの破損でもあれば、齒醫者は直に之れを見つけて、療法を講じますから、痛い事をしなくてすむ。それで、子供の方でも、齒醫者は痛くないものと考へるやうになる、之に反して、已に破壊してしまつてから、齒醫者に急ぐやうなのは、始めから之を抜くといふやうに、痛い事をしなければならぬ故に子供は齒醫者を嫌つてしまひます。乳齒も、蟲齒が出来から、填充せねばならぬ。乳齒は直にぬけるといふて、填充をおろそかにするのはよくありません。

幼稚園で、それ位、蟲齒について注意して居るかとしらべて見ると、成績は存外よくない。即左の通りです。

年齢人員	3 2	男 4 5	子 5 17	6 6	計 30
齒數	40 $\left\{\begin{smallmatrix} 20 \\ 20 \end{smallmatrix}\right.$	100 $\left\{\begin{smallmatrix} 50 \\ 50 \end{smallmatrix}\right.$	345 $\left\{\begin{smallmatrix} 170 \\ 175 \end{smallmatrix}\right.$	326 $\left\{\begin{smallmatrix} 160 \\ 166 \end{smallmatrix}\right.$	611 $\left\{\begin{smallmatrix} 300 \\ 311 \end{smallmatrix}\right.$
萬齒數	0	18 $\left\{\begin{smallmatrix} 8 \\ 10 \end{smallmatrix}\right.$	97 $\left\{\begin{smallmatrix} 50 \\ 47 \end{smallmatrix}\right.$	36 $\left\{\begin{smallmatrix} 18 \\ 18 \end{smallmatrix}\right.$	151 $\left\{\begin{smallmatrix} 76 \\ 75 \end{smallmatrix}\right.$
根ばかり	0	0	33 $\left\{\begin{smallmatrix} 25 \\ 8 \end{smallmatrix}\right.$	6 $\left\{\begin{smallmatrix} 6 \\ - \end{smallmatrix}\right.$	39 $\left\{\begin{smallmatrix} 31 \\ 8 \end{smallmatrix}\right.$
缺損	0	0	1 $\left\{\begin{smallmatrix} - \\ 1 \end{smallmatrix}\right.$	2 $\left\{\begin{smallmatrix} 2 \\ - \end{smallmatrix}\right.$	3 $\left\{\begin{smallmatrix} 2 \\ 1 \end{smallmatrix}\right.$
萬齒アルモノ	0	3	17	5	25
ナキモノ	2	2	0	1	5
頁	2	0	2	0	4
萬齒ノ手分ナルモノ	0	4	8	4	16
皆無	0	1	7	2	10

年齢人員	3 5	女 4 6	子 5 15	6 1	計 27
齒數	100 $\left\{\begin{smallmatrix} 50 \\ 50 \end{smallmatrix}\right.$	122 $\left\{\begin{smallmatrix} 62 \\ 60 \end{smallmatrix}\right.$	300 $\left\{\begin{smallmatrix} 150 \\ 150 \end{smallmatrix}\right.$	20 $\left\{\begin{smallmatrix} 10 \\ 10 \end{smallmatrix}\right.$	542 $\left\{\begin{smallmatrix} 272 \\ 270 \end{smallmatrix}\right.$
萬齒數	11 $\left\{\begin{smallmatrix} 7 \\ 4 \end{smallmatrix}\right.$	34 $\left\{\begin{smallmatrix} 17 \\ 17 \end{smallmatrix}\right.$	59 $\left\{\begin{smallmatrix} 20 \\ 39 \end{smallmatrix}\right.$	2 $\left\{\begin{smallmatrix} 1 \\ 1 \end{smallmatrix}\right.$	106 $\left\{\begin{smallmatrix} 45 \\ 61 \end{smallmatrix}\right.$
根ばかり	2 $\left\{\begin{smallmatrix} 1 \\ 1 \end{smallmatrix}\right.$	14 $\left\{\begin{smallmatrix} 9 \\ 5 \end{smallmatrix}\right.$	30 $\left\{\begin{smallmatrix} 22 \\ 8 \end{smallmatrix}\right.$	5 $\left\{\begin{smallmatrix} 4 \\ 1 \end{smallmatrix}\right.$	51 $\left\{\begin{smallmatrix} 35 \\ 16 \end{smallmatrix}\right.$
缺損	0	0	0	0	0
萬齒アルモノ	3	6	13	1	23
ナキモノ	2	0	2	0	4
頁	2	2	4	0	8
萬齒ノ手分ナルモノ	1	2	7	1	11
皆無	2	2	4	0	8

右の表の如く、成績は不良ですから今後は、今少し齒の手入に注意して置きたい。幼稚園で、一週間に一度兒童に口を開かせて手入のよしあしを検査するやうにして置きたい。

數年前、百萬人ばかりの小學生徒の蟲齒を調べた表を見ましたが、地方によつて、其數が甚だしく違

つて居る。東京と横濱は非常に多くなつて居る。東京や横濱では百人の中七十三人の蟲齒の者があるのに、宮城縣と秋田縣では僅に三十人位である。

之を要するに、齒牙口腔の衛生について、はまた世間であまり注意せられて居らぬのは事實である。故に之れから一つ注意して齒を健全ならしむるにつとめたいのであります。楊枝は、あまり、やはらかすぎぬものを、朝夕必ず二回は使用する事、また食後は必ず含嗽する事、楊枝は使用後必ず乾燥せしむる事、是等の點に注意して置きたいのであります。

英文學にあらはれたる子供 (三)

『ジエーン、アイア』(三)

赤部室レッドルームといふのは明部室で、此家に御客でも澤山あつて、家中の部室が皆入用だといふ場合でな

ロッヂヤンといふ社會學者が「歐洲の文明が口中に迄及べるは唯上流社會のみ、中流社會は未し」とはいふて居りますが、日本では上流社會もどうでありませうか。却て上流の子弟に禹齒の多い事實を私は一度調べたことがあります。

小學校幼稚園などで、兒童の時分から、他のいづれの點にも注意しておもらいすると同時に、齒の衛生につきても、よく注意して置きたいと願ひするのであります。

附記本篇は學友丸茂學士の論文に負ふ所大なり記して謝意を表す。

岡 田 み つ

くては人が此處へ寝る事はないのである。尤部室としては、家中で一番大きな立流なので中央に御